

第 4 次健康都市いずみ 2 1 ・食育推進計画（素案）への意見募集（パブリックコメント） 募集結果概要

- 1 意見等募集期間：令和 7 年 1 月 6 日（月） ～ 令和 7 年 1 月 3 1 日（金）
- 2 意見等提出者数：個人 6 名
- 3 意見等提出件数：6 件
- 4 ご意見・ご提案の概要及び市の考え方

No.	頁	章	節	タイトル	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
1	75	6	1-2	身体活動・運動に関する施策について	50メートルプールがある施設を設立頂きたいです。古いサンサンプール等は閉鎖でも仕方がないと考えます。	建設費用や設置後のランニング及びメンテナンスコストの支出など、継続的な財政負担が想定されることから建設の予定はございません。
2	76, 80	6	1-3, 2-3	学校給食について	5歳3歳の子供を持つ母です。小学校入学を再来年に控え、学校給食が美味しく、また食事の時間を楽しむことができるよう希望します。和泉市は農業が盛んであり、地産地消を実現しやすい環境だと思います。給食提供側の採算等、無理のある部分は市が補填し、子供の健康と満足が一番の目的に学校給食の改善を行っていただきたいです。	和泉市では、栄養教諭を中心に、栄養価等に考慮した献立を作成しています。地場産物の使用については、生産量に限りはありますが、農家から購入した季節の野菜等を使用したり、1月の学校給食週間には、全校統一で和泉市産米を使用しています。今後におきましても、子どもたちが心身ともに健康に成長できるよう、学校給食の充実に努めてまいります。
3	73 78 86, 87	5 6 7	2 1-6	三次喫煙および20歳以上の青年期における喫煙について	「三次喫煙」の記載について、三次喫煙については厚労省のホームページ内「生活習慣病予防のための健康情報サイト 2018」において、「新しい概念であるため、研究はまだ少なく健康影響についてもまだ明らかでない」とされていること、また厚労省の「健康と喫煙	三次喫煙につきましては、健康増進法における受動喫煙の定義にも明確にされていないことから、いただいたご意見を踏まえ、検討します。

No.	頁	章	節	タイトル	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
					<p>喫煙の健康影響に関する検討会報告書 2006」においては、「現段階で三次喫煙による健康影響を示す疫学調査報告は見当たらない」と記されています。和泉市が国と異なる見解をされているようで市民として混乱しております。和泉市独自の調査で三次喫煙により健康影響が認められるという疫学調査結果があるのでしょうか。「三次喫煙」という文言自体を削除すべきと考えます。</p> <p>第7章市民と地域団体・関係団体が主体的に取り組む健康づくり・食育促進 86P</p> <p>「喫煙による健康への影響について学び絶対に喫煙はやめましょう」とありますが、小中学生については同意いたします。しかし青年期の20歳以上については、個々の判断を尊重すべきであると考えます。合法的嗜好品であるたばこは適切なリスク認識のもと20歳以上の人が個々判断すべきであると考えます。「絶対」「禁煙」という明記から個々の判断をないがしろにするものであり、行政が特定の方向に向くように発信することに恐怖を感じます。行政は「禁煙希望者の支援」を前提として適切に判断すべきと考えます。</p>	<p>本市は喫煙率が高いことが課題であり、また喫煙は様々な疾患の原因であり、健康に大きく影響することより、喫煙率の低下と受動喫煙対策は、重要な取り組みと捉えております。生活習慣病リスク軽減のため、喫煙が健康に及ぼす影響について関係団体と連携し、広く普及啓発を行ってまいります。20歳以上の青年期における喫煙に関する表現については、検討します。</p>

No.	頁	章	節	タイトル	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
4	40 48	3 3	10(3) ② (8)④	生活習慣病予防・改善のための食生活の実践及び主食・主菜・副菜を3つそろえて1日に2回以上食べる頻度について	<p>生活習慣病予防・改善のための食生活に実践について、「食改」等のイベントで、「野菜を1日350g摂りましょう。」とキャンペーンで、野菜の実物を提示され、「わー、そんなに沢山」との印象だけが残りました。厚労省の「生活習慣の改善（栄養・食生活）の項、「野菜摂取量の増加」とあり、令和元年度の平均値は、281gと表明されています。しかしながらこの差の69gを如何にして、達成するかの指針がイベント等ではありません、ご提案ですが、昨年入院時、栄養士さんからアドバイスで、一日いずれの食事でもよく週5回、「おかず1皿＝50g」例、「ほうれん草のおひたし」を加えるのがよいとのこと。このように具体的な例を、「食改」とのキャンペーンでご教示賜りたい。1日野菜350gを達成しようと、テレビのコマーシャルに載せられて、「青汁」を20日間続けてのみ、血液検査をしたところ異常にカリウムが上昇し、主治医から、ドクターストップがかかりました。サプリメントの功罪をキャンペーンされることを望みます。</p> <p>主食・主菜・副菜を3つそろえて1日に2回以上食べる頻度について、朝食を食べる習慣の頻度が増加傾向にあることは論を待ちませんが、3食を摂る時間差に問題があるのではと考察いたします。通常その時間差は6時間がよいと理解されています。しかし、病院の食事間隔は、朝食8時：昼食12時・夕食6時となっており、食事前の諸検査の数値、昼食前の値が常に高</p>	<p>生活習慣病予防・改善のための食生活の実践につきましては、いただいたご意見を踏まえ、具体的な例をあげるなど、わかりやすく情報を提供し、関係機関と連携しながら、生活習慣病の予防や改善につながる食生活を実践できるよう、取り組んでいきます。</p> <p>栄養バランスや食生活につきましては、市民一人ひとりが食に関する知識と選択する力を習得し、健康的な食習慣を身につけることができるよう施策を推進していきます。ご意見については参考にさせていただきます。</p>

No.	頁	章	節	タイトル	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
					<p>くなる傾向であります、病院のシステム上仕方ありません。提案、各個人の3食の時間差に関して、「時計遺伝子によって制御される体内時計は、近年では、食・栄養素と相互作用することがわかってきました。すなわち、「食・栄養素は体内時計のリズムを調節し、体内時計は自身が制御する消化・吸収・代謝のリズムによって、食・栄養素を摂取したときの生理応答を変化させるのです」この時間栄養学の概念をキャンペーンとしてご教示賜れば幸甚です。</p>	
5	第4次健康都市いずみ21・食育推進計画(素案)全体に対するご意見			食育の推進について	<p>★基本認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康は食にあり」、市民の健康はまず健全な食の在り方を推進することが大切。 ・戦後の混乱期は兎も角、昭和50年以降の国の食料自給も問題も含め、食の安全性に対する政策は疑問が多い。 ・経済優先、交易優先のあまり、食の安全性が蔑ろにされている感あり。 ・健康に関しては複雑な要因があるが、最も基本的で重要な要素は「食」だ。 ・ファクトとして、戦後の日本人の食生活の変化(小麦、乳製品、植物性油、甘い物の摂取の増大)と医療費の異常な増大(40年前と比べ6倍以上≒36兆円以上)。 ・医学の進歩とは比例せず、海外からの食の変化と正の相関がある。 ・戦後の日本人の思考の癖が不健康志向になっていないか? 	

No.	頁	章	節	タイトル	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
					<p>★提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の体質に合う食習慣の在り方について、市としての考えをまとめる。参考情報（YouTube） ・日本人の体質に合う食習慣の在り方を広報や市民活動の支援を、市の食育推進として継続的に浸透させてゆく。（当然ながら重要課題としての予算配分が必要） ・市民の医療費が現在よりも少なくなっていく（活動の成果）ことを年毎の活動報告で市民に知らせてゆく。（食育推進活動の正しさの証明） <p>★主張</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四毒抜き食生活のすすめを市の食育推進とすれば、医療費は10年も経たずに半減するはず。 	
6	82	6	4-1	ホルモンバランスによる影響についての普及啓発について	<p>ホルモンバランスについては程度の違いがかなりあるので重度の方の気持ちを軽度の方がわかるのは女性同士でも困難。しかし重度な人を基準に啓発活動をすべきであり、男女問わず大いに具体的にどういった不調が起きているのかを定期的に何度も何度も落とし込み人々の意識を高める活動が必要 不可欠と考えます。</p>	<p>ご提案いただいた内容は、今後の事業実施の参考とさせていただきます。また、周囲の人に対しても、ホルモンバランスによる影響についての理解促進に努めてまいります。</p>